

「山形県高島町の中学校統合問題について」

近年、少子化の問題に加え、都市部への人口の流出によって地方の小中学校が統合されていくケースが多い。私の故郷である山形県高島町には、現在は高島第一中学校から第四中学校までの四校が町内に存在しており、そのすべてが公立である。高島町でも数年前から中学校の統合案が持ち上がり、平成 28 年には完全に統合される予定である。このテーマに興味を抱いたのは、自らの母校が廃校となり解体されることに加えて、統合後の中学生の中学生活にどのような影響が及ぼされるのか疑問に思ったためである。生徒数はやはり年々減少しており、生徒数は 721 人（H22 年度）とピーク時の 3 割にも満たない上、財政の問題にも関連してこのような計画に踏み切られるということは仕方ない。しかし、高島町で暮らす生徒は十分な環境で勉強できるのだろうか。

なにより問題と考えられるのは、通学に関してどのような措置が取られているのかということである。もともと 4 つの学区によって構成されていた町内の中学校であったが、そのすべての学生が一つの校舎に通学するとなると、かなりの移動距離になってしまう学生も存在する。また、高島町は特別豪雪地帯に指定されているため、地域によっては冬季の自力での通学がさらに困難になる。そこで、高島町がこの問題についてどのような対策をとっているのかについて調べることにした。私の父は高島町役場に勤務しているため、直接この問題について話を聞いてみたところ、学校から 4 km 以上離れた場所に住む生徒には専用の送迎バスを用意するとのことであった。しかし、このような対策は取ってあるものの、どうしてもデメリットは存在する。送迎バスではどうしても時間に制約が出てしまうため、部活動の活動時間やそれ以外の活動においても制限されてしまう場面があるということが考えられる。中学校が統合されてしまったことで、地理的に不利な環境に置かれてしまった生徒がいるということも否めないだろう。

しかしさらに話を聞いたところ、統合することで生徒にとってより良い環境となる点も存在する。例えば、部活動の多様性である。各校とも決して多くの生徒が在籍するとは言えず、私の中学時代にも 1 学年に 2 クラスといった程度の人数であった。そのため、部活動の幅は狭く自由な選択ができるとはいえなかった。しかし町内の生徒が集まることによって、多岐にわたった部活動が可能になる。また、予算を一か所に集中できるため、設備などの点においてもよりよい環境を作ることができるという。

人口が流出してしまう問題は、容易に解決できる問題ではない。地方の市町村では、都市部に人口が流出し、財政が悪化、さらに流出、という悪循環を繰り返している。そのような問題を抱えた中で、財政問題への対処、生徒の学習環境の維持、改善のためにはこのような措置は妥当であると考えられる。しかし前述したような、通学などのデメリットがあることもまた事実である。この事業を進めるにあたって慎重に検討するのはもちろん、地域住民による意見交換などが積極的に行われるべきではないだろうか。